

朝日ニュース

製作 朝日新聞社
日本映画新社



朝日映画ニュース

東京朝日新聞社

澤村国太郎氏

朝日世界ニュース

朝日新聞社

製作 朝日新聞社
録音 岡本
7/15 特撮部

朝日映画大観

国際ニュース

録音 RCA・東洋
7/15 特撮部



読書ニュース

読書国際ニュース



昭和館第19回特別企画展

ニュース映画 にみる昭和

平成18年4月28日(金)~5月14日(日)

【会場】昭和館3階 特別企画展会場

【開館時間】10:00~17:30 (入館は17:00まで)

【休館日】月曜日(5月1日は開館)

7・6階では常設展示(有料)を行っています。

団体予約承ります。

【交通のご案内】

電車ご利用の場合 地下鉄九段下駅から徒歩1分
(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口)
JR飯田橋駅から徒歩約10分

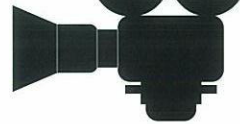
車ご利用の場合 首都高速西神田ランプから約1分(九段下交差点)

【有料駐車場】(1時間200円)

普通自動車専用駐車場(64台)がご利用になれます。



入場 無料



朝日ニュース
製作 朝日新聞社
社団法人日本映画社



毎日ニュース

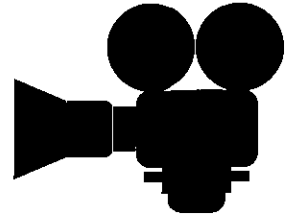
製作 毎日新聞社
毎日映画社
配給 日活株式会社



昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
TEL.03-3222-2577(代) 03-3222-2574(直) FAX.03-5216-3152
ホームページ <http://www.showakan.go.jp>

ニュース映画 にみる昭和

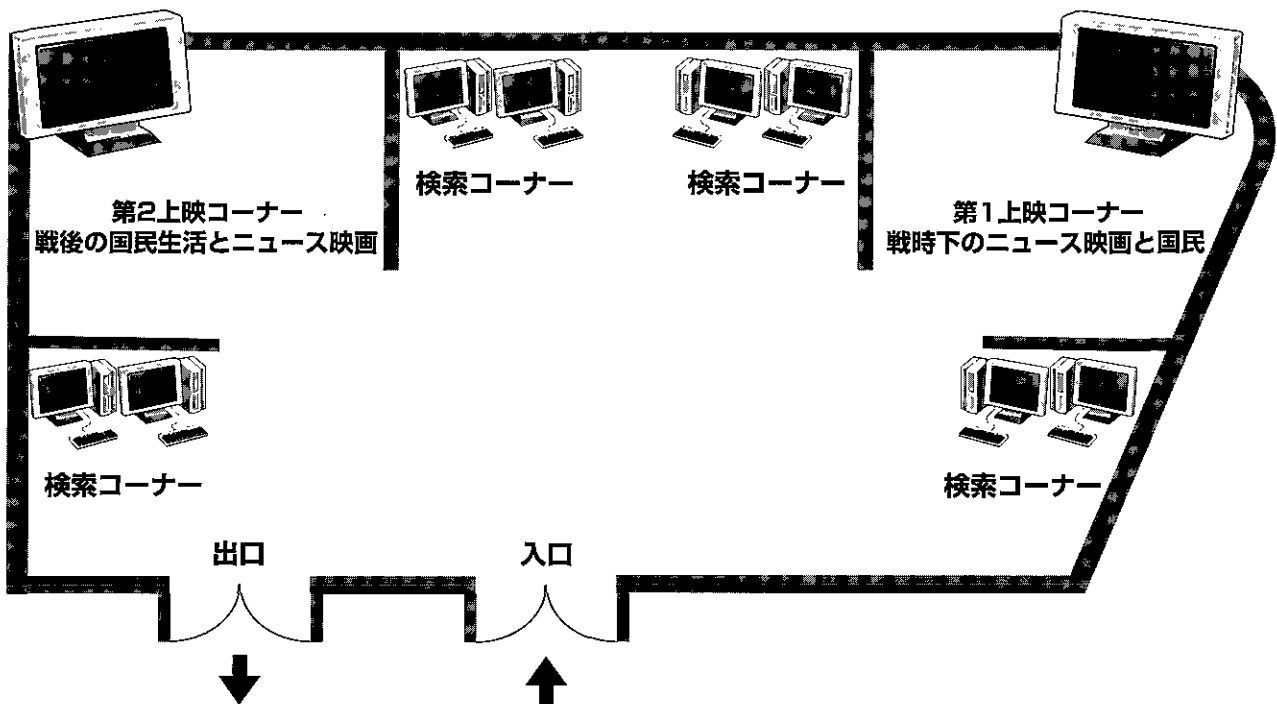


日本においては、大正3(1914)年に定期的なニュースが初めて登場し、昭和9(1934)年前後からは本格的に朝日・読売・大阪毎日といった新聞社がニュース映画を製作しはじめ、3年後には同盟通信社などが加わり中国大陸での戦況の映像を大々的に紹介するようになり、最初の全盛期を迎えるようになりました。

戦争の長期化にともなう物資の不足などを理由に、昭和14(1939)年に「映画法」が施行され、ニュース映画は「日本ニュース」に統合され、国策として上映されることになりました。以後戦中にかけて政府や軍の厳しい検閲を受けつつ、全国各地で上映されました。終戦とともに、各新聞社や通信社を中心にニュース映画の製作が復活し、第2の全盛期を迎えましたが、昭和27(1952)年まではGHQによる検閲が続きました。それまで情報の最先端として国民生活に根付いてきたニュース映画も、昭和28(1953)年のテレビ放送の開始とその後のテレビの普及により、ニュース映画は急速に衰退していきました。

ニュース映画が全く姿を消してしまった今日、改めて昭和の証言者であるニュース映画を振り返る意義は大きいと考えます。本展では、ニュース映画が歩んだ歴史やその時代的な背景を年表や壁新聞・宣伝用のチラシなどによって紹介しつつ、初公開のものも含め、ニュース映画の上映を通して当時の世相や時代の移り変わりを振り返ってみます。

3階 特別企画展会場のご案内



第1上映コーナー 戦時下のニュース映画と国民

昭和9年頃から20年までの朝日・東日大毎・読売・日本ニュースを上映します。

第2上映コーナー 戦後の国民生活とニュース映画

終戦後各新聞社等が製作を再開した中から読売国際・朝日・毎日ニュースを上映します。

検索コーナー テーマ別に見たニュース映画

「国民生活」「事件・騒動・災害」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」の中から好きな映像を選んで鑑賞できます。

資料展示

当時街頭に貼られていた壁新聞の多くはニュース映画の製作会社が作ったもので、これらの関連資料も貴重な資料であり、併せて展示します。